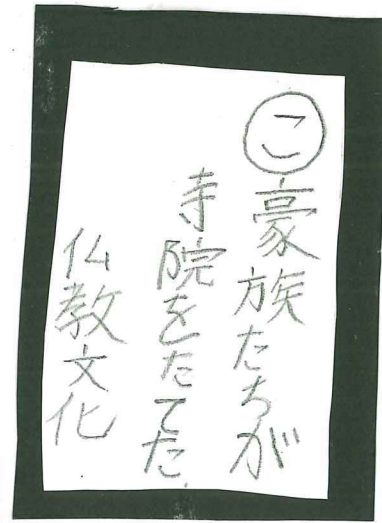
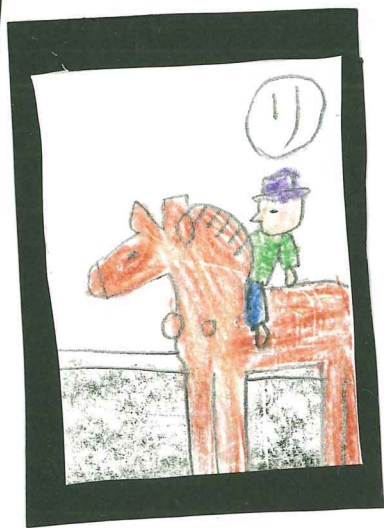
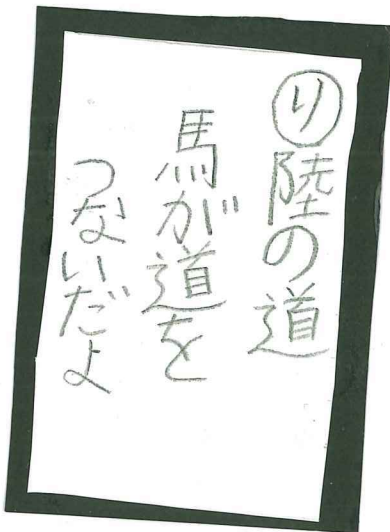


# 古土質かるた

～8つのキーワードからのかるた作り～



太田市立旭小学校

4年 和田明子

# 1. 研究のきっかけ

2018年「はにわ研究」をしました。

群馬県のはにわは、4世紀後半から6世紀終わりまで作られ、古墳にかざられていたことが分かりました。

はにわには、死んだ人への思いが込められていると知りました。

2019年「古墳王国ぐん馬ソングを作ろう!!」では、古墳時代に、私が住んでいる群馬県に力をもたえたい人が住んでいて、さかえていた様子を歌にしました。

私は、古墳時代の様子のすごさをみんなに知ってもらいたいと思っていますが、私の周りの友達でそのことを知っている人はほとんどいません。

何をしたら古墳時代のすごさをみんなに知ってもらえるのだろうか？と私は考えました。

そこで、上毛かるたを思い出しました。古墳時代の様子をかるたにしたら、多くの人に知ってもらえて、長く親しまれると思いました。

私は古墳時代のかるたを作ることにしました。





## 2. 研究の方法

- ①古墳王国群馬のキーワードを見つける
- ②見つけたキーワードを調べる
- ③調べた内容をつかてかるたを作る

## 3. 研究の内容

- ①古墳王国群馬のキーワードを見つける

私は、東国文化副言売本の「はじめに」を参考にして、古墳王国群馬のキーワードを見つけることにしました。

群馬は、東国文化のふるさとといわれています。古墳時代を中心に、現在の関東地方で栄えた文化を「東国文化」といいます。当時の日本は近畿地方が政治・経済・文化の中心地でしたが、群馬の地域は、ヤマト王権と連携した大きな勢力が形づくられ、仏教や文字文化が早くから発達し、経済的にも文化的にも当時の東日本をリードする先進的な地域でした。

その背景には、今と同様、交通の要である群馬の地域の重要性和中国大陸や朝鮮半島の文化や技術の伝来が、大きな役割を果たしています。

堂々とした姿を誇る巨大古墳、ヨロイを着けた武人や祭祀を行う巫女の埴輪、鏡や冠などの豪華な出土品、住居跡や水田跡など、多くの歴史文化遺産が残されており、群馬で生きた人々の暮らしの一端を見せながら、私たちに群馬の昔を語りかけてくれています。

なぜ東日本最大の古墳大国になったのか、古墳を造った豪族や当時の人々はどんな暮らしをしていたのか、出土品から見えてくる大陸やヤマト王権との関係はどのようなものか。

この本を読んで、皆さんが古代に群馬が果たした大きな役割を知り、郷土の歴史や文化に興味を持っていただきたいと思います。

## ②見つけたキーワードを調べる

見つけたキーワードは、8つです。

- (1) ヤマト王権と連携
- (2) 仏教や文字文化の発達
- (3) 交通の要である君羊馬の土地
- (4) 中国大陸や朝鮮半島の文化や技術の伝来
- (5) 巨大古墳
- (6) ヨロイを着けた武人や祭礼を行う巫女の土車輪
- (7) 鏡や冠などの豪華な出土品
- (8) 住居跡や水田跡

それぞれのキーワードについて調べていきたいと思います。

### (1) ヤマト王権と連携

かるたに使う言葉に —

古墳時代、君羊馬土地にあたる上毛野を治めた豪族たちは、ヤマト王権と連合関係を結び東アジアの進んだ文化や技術を取り入れました。その中には、東日本最大の前方後円墳を築いた人物もいました。

### (2) 仏教や文字文化の発達

5世紀以降、ヤマト王権は朝鮮半島からの渡来人を組織化し、外交のみならず内政も文字を用いるようになりました。7世紀以降、律令支配と仏教文化が広まると、社会全体に文字が普及しました。しかし、多くの人々は文字を正しく理解できず、文字に人や人の心を重くかす力があると感じていたようです。

高崎市にある山上石碑・多古月石碑・金井沢石碑の3つの石碑は、古代上野国における仏教信仰や律令政治、家族関係を示す貴重な資料です。





▲利根川 (利根川大堰)

(3)交通の要である群馬馬の土地

群馬県で古く昔時代の初其月に発達したのは、川の道で、利根川は、東国における産業・交通を支えた大動脈です。

その後、5世紀初め頃までに朝鮮半島から伝わった馬文化(乗馬と生産)は、5世紀後半には群馬県にも伝わりました。馬は、たいへん貴重であり、「馬の道」が整備されたのです。

(4)中国大陸や朝鮮半島の文化や技術の伝来

5世紀になると、優れた金・銀・金銅製の工芸品や装飾品、金製の甲冑などの武具、馬具、須恵器などが日本にもたらされるとともに、それらを作る高度な技術も入ってきました。

これらは、朝鮮半島で作られたものを渡来人が持ってきたもののほかに、渡来人によって日本国内で作られたものもあります。

(5)巨大古墳

群馬県には大きな古墳があります。太田市にある太田天神山古墳は長さが210mもあり、東日本では最大、国内の古墳の中で26番目の大きさです。都道府県別大型古墳数ランキングでみると、全国で4位であることがわかります。

群馬県の古墳から質が高い石室や石棺が出てきています。また、古墳から出てきた副葬品がごうかでたくさんあります。



▲金銅製鈴付大帯 (高崎市、綿貫観音山古墳)



▲杏葉 (高崎市、綿貫観音山古墳)



(6) ヨロイを着けた武人や祭祀を行う巫女の埴輪

古墳から出土する埴輪からさまざまなことがわかります。当時の豪族の住まいのようすを立体的に知ることが出来ます。また、人物埴輪からは、王・巫女・武人などによる儀礼のようすがわかります。イソシウマ・水鳥・ニワトリなど大量の動物埴輪も出土しており、タカ狩りや鶉飼いが行われていたことを示す埴輪もあります。

(7) 金鏡や冠などの豪華な出土品



古墳時代前期の豪族にとって、そのランクを決める最上級のアイテムは「金鏡」です。「三角縁神兽鏡」は、ヤマト王権との関係の証として各地の豪族に配布された金鏡の一つと考えられています。

冠は、山王金冠塚  
古墳から出土している。

(8) 住居跡や水田跡

群馬県では、火山の噴火があたため、当時のムラのようすや田・水田のことを詳しく知ることが出来ます。また、古墳時代の水田跡が多数発見されています。



▲ 古墳時代の集落復元模型 (高崎市、かみつけの里博物館)



▲ 水田跡 (高崎市、<sup>どうどう</sup>同道遺跡)



### ③ 調べた内容をつかてからたを作る

(1) ヤマト王権と連携 ㊦ ㊧

㊦ ヤマト王権と  
つながる  
上毛野



東アジヤから  
やってきた

㊧ 文化や技術



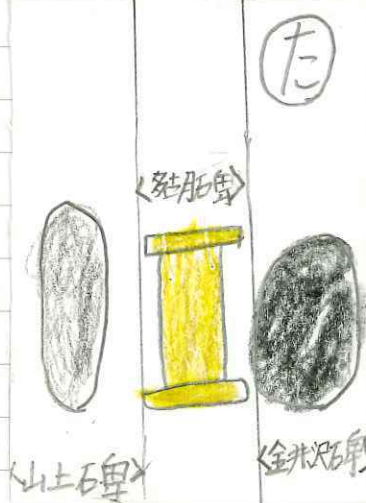
(2) 仏教や文字文化の発達 ㊨ ㊩

㊨ 豪族たちが  
寺院をたてた  
仏教文化



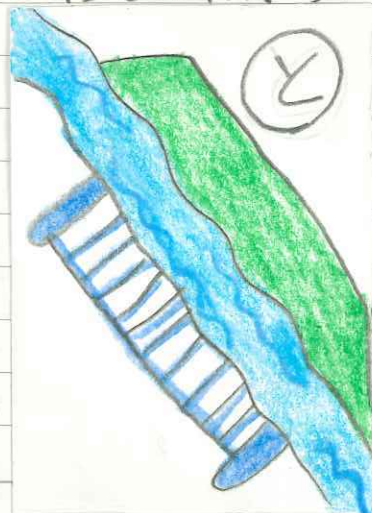
上野三碑  
貴重な資料

㊩ 高山にある



(3) 交通の要である君羊馬の土也域 ㊪ ㊫

㊪ 利根川は  
古墳時代の  
川の道



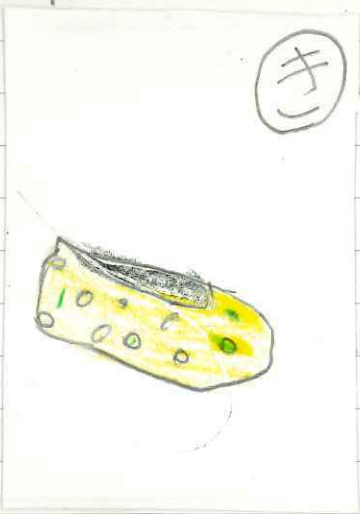
馬が道を  
つないだよ

㊫ 陸上の道

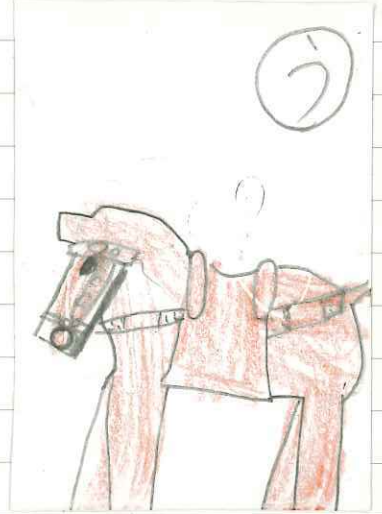


(4) 中国大陆や朝鮮半島の文化や技術の伝来 (き) (う)

(き) 金、銀、銅  
すばらしい  
高度な技術



(う) 馬文化  
朝鮮半島から  
わってきた

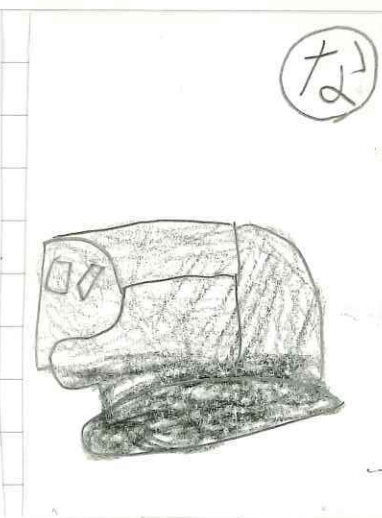


(5) 巨大古墳 (ひ) (な) (お) (み)

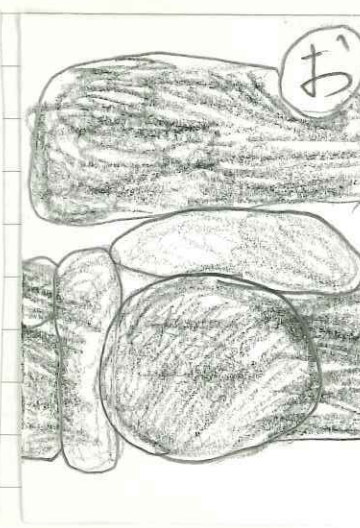
(ひ) 東日本  
最大の  
太田天神山古墳



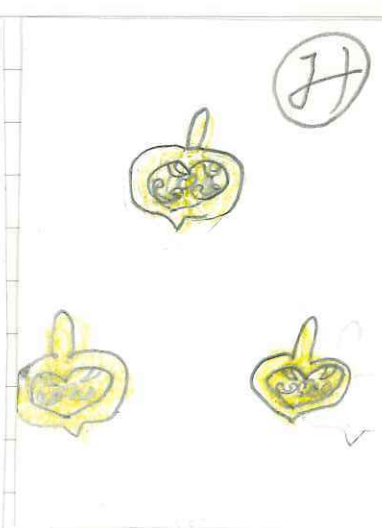
(な) 長持形石棺は  
王家の  
あかしだ



(お) 大きな石で  
作られた  
横穴式石室



(み) 見つかった  
光り輝く  
副葬品





(6)ヨロイを着けた武人や祭祀を行う巫女の埴輪(よ)は

立派な国宝  
武人埴輪

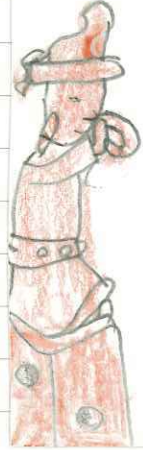
(よ) よろいを着けた



(よ)

儀礼の  
様子

(は) 埴輪が伝える



(は)



(7)鏡や冠などの豪華な出土品(く)か

ラフクを決めた  
豪族の

(く) 配られた鏡は

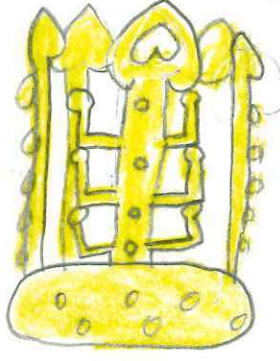


(く)

大陸とのつながり

教える

(か) かんむりが

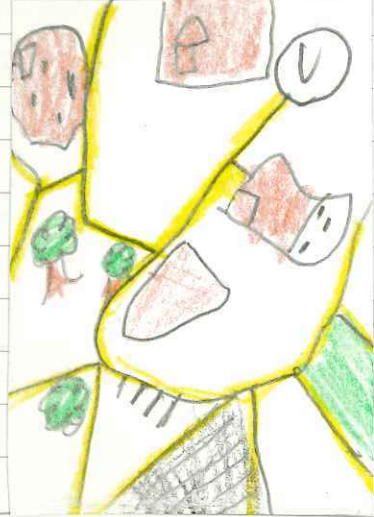


(か)

(8)住居跡や水田跡(し)す

そのまま残る  
大噴火により

(し) 住居跡

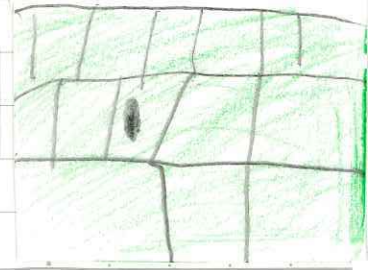


(し)

たくさん見つかる

七百以上

(す) 水田跡



(す)



# 4. 研究の糸吉果

群馬県には、古墳時代に力をもたえらる人が往んでいて、栄えていました。私は古墳時代の様子のすごさをみんなに知ってもらいたいと思い、かるたを作りました。

東国文化副読本の「はじめに」を参考にして、古墳王国群馬のキーワードを見つけることにしました。

見つけた8つのキーワードを調べ、分かりやすいかるたになるように、大切な言葉を糸目み合わせて作りました。

8つのキーワードから、18の文字を使った札ができました。古墳時代の様子が分かりやすく作ることができたので、多くの人に使ってもらい、長く親しんでもらいたいと思います。

私は、これからも群馬県の古墳時代を楽しく学べる方法を考えていきたいと思っています。

# 5. 参考にした本

- ・東国文化副読本～古代ぐんまを採検しよう～(2017)
- ・群馬県立歴史博物館常設展示図鑑監
- ・群馬県立歴史博物館 第99企画展
- 集まれ！ぐんまのはにわたち